

大玉村歴史文化基本構想

歴史文化基本構想とは

文化財を総合的に把握し、有形・無形、指定・未指定にかかわらず様々な文化財を歴史的・地域的関連性に基づき一定のまとまりとして捉え、住民の地域への理解、地域に対する誇りの向上、地域との連携協力の推進、行政内との連携の促進を醸成し、文化財とその周辺環境も含めた総合的な保存・活用の構想です。


策定の目的

大玉村では、安達太良山の麓に自然・歴史・暮らしが脈々と引き継がれ、産業、民俗芸能、伝承、風俗慣習など数々の文化財が住民の暮らしの中で、古くから大切に守られ受け継がれてきました。これら全ての文化財は地域への誇りや愛着を育む源となってきました。

豊かな歴史・文化を次世代に引き継ぎ、地域振興、観光振興など様々な側面において、貴重な景観、民俗芸能、年中行事を維持、継承するため、歴史・文化を活かした村づくりを本構想のテーマとしました「安達太良山とともに生きる輝かしい大玉村」を推進するために策定しました。



平成30年3月

 大玉村

おおたま遺産とは

大玉村は安達太良山に抱かれ自然に恵まれ、その中で暮らしが生まれ、歴史が築かれてきました。この環境が産業を生み出し、暮らしに密着した民俗芸能・伝承・風俗慣習を育んできました。自然、歴史、産業、民俗芸能、伝承、風俗慣習が大玉村の魅力と言え、これらを村内外に発信する大切な「おおたま遺産」としました。



村南西部から望む安達太良山



トロッコ道軌道跡



遠藤ヶ滝

歴史文化の特性

- 大玉村では屋敷林を「いぐね」と呼びます。屋敷林は全国的に見られるものですが、大玉村のいぐねは北関東の屋敷林文化にルーツを持ち、安達太良山の山麓に広がる地域であるという位置関係や農村生活と深く結びついた文化を持っています。
- 大玉村には、十九夜塔・二十三夜塔・二十六夜塔・庚申塔などの石造文化財が多く残っていることから、様々な民間信仰が日常生活の中に根付いていたと言えます。
- 大玉村では、お正月に行うサイの神が十数か所の地区で現在においても継続して行われています。こうした暮らしに密着した行事が、日常生活に根付いて多く残っていることが特徴と言えます。
- 大玉村の神社や仏閣には多くの絵馬が奉納され、その中でも大玉村では明治中期に制作された「三十六歌仙絵馬」三組が残り、この残存数の多さは全国的に珍しいと言えます。これらの絵馬からは、二本松藩御絵師の大原文林やその門弟とみられる地方絵師の活躍の実態や活発な当時の芸術活動が伺えます。
- 南東北にも多くの古墳が確認されていますが、大玉村には福島県中通り地方で最も古い古墳があるだけでなく、周辺市町村と比べても、古墳が造られていた時代の幅が広く、密集して古墳が造られているという特徴を持ちます。
- 福島県内にも多くの森林鉄道はありましたが、大玉村の玉ノ井林用軌道は、東北本線本宮駅に接続される珍しいものでした。この軌道にはトロッコが走り、現在でも愛着を持って「トロッコ道」と呼ばれ、利用されているのが特徴と言えます。



玉井大橋地内（いぐね）



大山破橋地区の十九夜塔

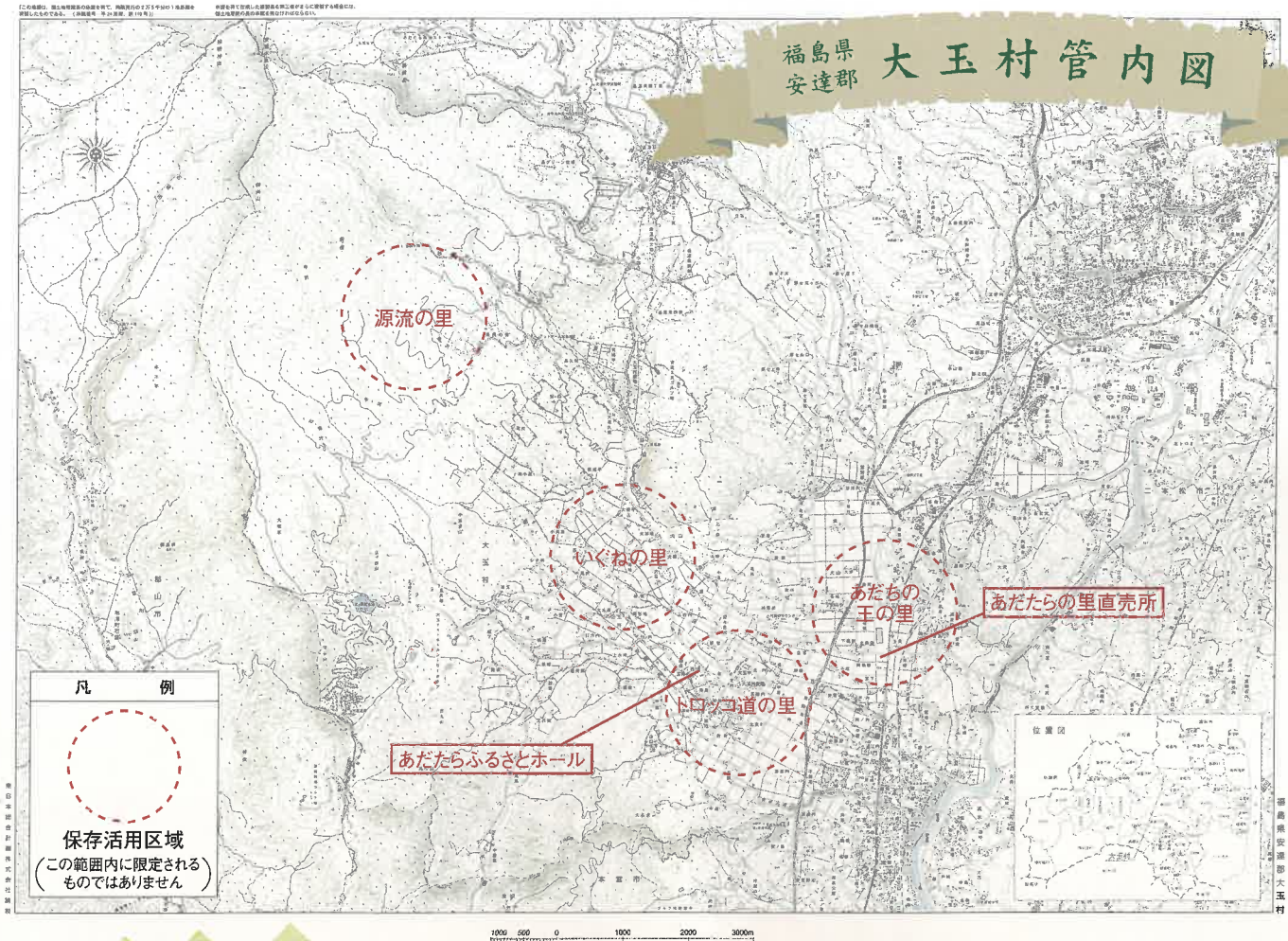


大山仲北地内（サイの神）



谷地古墳出土土円筒埴輪

福島県 安達郡 大玉村管内図



保存活用区域

策定のテーマ「安達太良山とともに生きる輝かしい大玉村」と、自然、歴史、産業、民俗芸能、伝承、風俗慣習という6つの視点で捉えたおおたま遺産の状況と歴史文化の特性から、4つの保存活用区域設定をしました。

「あだちの王の里」は、大山地区に残る古墳が約4km²の範囲に密集し、時代の幅が広く造られています。その古墳群のほぼ中央に「あだたら^{いにしえ}の里直売所」もあり、観光や村の情報発信に大きな役割を果たすものと考えられます。さらに、古墳を散策するルートとしても活用を図れるものと考えています。

「いぐねの里」は、いぐねは古くから生活に根ざして造られたもので、郷愁を誘い、住民の郷土愛や誇りの醸成ができるものと考えています。また、いぐねのある景観を観光資源とし、さらに散策するルートとしても活用を図れるものと考えています。

「トロッコ道の里」は玉井地区に敷設されていました。この軌道はまさに安達太良山が育んだ豊かな森林資源がもたらしたものです。この軌道周辺には、おおたま遺産が多く残されて、名所・旧跡を知る散策するルートとしても活用を図れるものと考えています。

「源流の里」は、豊富な水の源泉地帯で大玉の歴史・自然・暮らしを支えているところです。杉田川上流の遠藤ヶ滝には平安時代末期の文覚上人遠藤盛遠の伝説も残されています。大玉村の古を知ることでできるものです。また、アットホームおおたま隣の「森の民話茶屋」においては、語り部が昔話や伝説などを語り伝え観光や村の情報発信に大きな役割を果たすものと考えられます。

大玉村歴史民俗資料館「あだたらふるさとホール」・「あだたらの里直売所」を、大玉村を訪れる人々へ村の魅力を紹介し、交流の便宜を図り、情報の発信の場として活用を図りたいと考えています。

おおたまた遺産の保存・活用の基本方針

① 価値の共有化

ア 歴史と文化を活かしたむらづくり推進

住民一人ひとりが様々な観点から「おおたまた遺産」の価値を共有するために、地元を学ぶ「おおたまた学」を創造し村の歴史・文化・自然・人物等について学ぶ機会の拡充を図ります。また、おおたまた学の項目にそれぞれ番号を付して、終わりなく積み重ねます。この積み重ねにより文化財台帳のなお一層の整備やデータベース化を推進していきます。

さらに、おおたまた学を継続するためにも、「おおたまた遺産」の把握、調査研究も要するため、専門職員を配置し充実を図ります。また、この調査研究により文化財指定を推進していきます。

② 保存・管理

ア 住民の主体的な保存・管理

文化財「おおたまた遺産」の保存・管理は、住民の暮らしとともにあることが重要です。住民の意思によって住民が主体となって保存・管理を図ります。さらに、地域ぐるみでの文化財の盗難や汚染等防犯意識の向上を図ります。

イ 世代を超えた継承発展への支援

文化財は、親から子へ、子から孫へと伝えることが大切です。身近な生活の中で人を育て、引き継いでいくものとして、世代を超えた継承発展が重要なものと考え、住民による継承発展活動の支援を推進します。

ウ 文化財指定・登録の推進

貴重な「おおたまた遺産」の保存・継承を図るため、指定や登録を推進します。特に、大山地区に密集して存在する古墳群の計画的な調査を行い、土地所有者との協議を進め、史跡指定を推進します。

エ 防災体制の整備

防災の基本理念である「自助」・「互助」・「共助」・「公助」により、地域ぐるみで文化財の防災対策を推進し、文化財への防災意識の普及を図ります。

オ 収納スペースの確保

増加する収蔵品に対する収蔵スペースの拡充を図ります。

③ 公開

ア 文化財の一般公開の推進並びに公開環境の整備

文化財所有者との調整を図りながら、文化財の一般公開の推進、散策ルートなどの案内板設置や周辺環境整備を図ります。

④ 活用

ア 学校教育・生涯学習での「おおたまた遺産」の活用の充実
おおたまた学を学校教育や生涯学習などにおいて活用し、「おおたまた遺産」を活用した学校教育・生涯学習を推進します。

イ 村内の施設を活用した情報発信

あだたらふるさとホールにおいて様々な体験、魅力ある「おおたまた遺産」の情報発信、さらに、あだたらの里直売所・アットホームおおたまたなどを利用し、魅力の情報発信の充実を図ります。

ウ 映像記録の発信

記録保存のためなどに撮影された映像等をSNS（TwitterやFacebook等）活用し、情報発信の充実を図ります。

エ 「おおたまた遺産」の観光資源としての活用

村内に各所に存在する多くの「おおたまた遺産」をいろいろな観点から多様なストーリーを設定し、観光資源として活用を図ります。

構想実現へ向けた体制整備

推進の体制

① 住民や各種団体との連携と協議会の設置

「おおたまた遺産」の保存活用についての情報を共有化し、連携した取り組みを推進するため、住民や各種団体を構成員とする協議会を設置します。歴史文化基本構想の内容を周知するとともに、住民や各種団体との連携・協働を進めます。

② 職員の「おおたまた遺産」に対する理解向上

大玉村職員が一丸となって「おおたまた遺産」の魅力伝えていくため、知り、学ぶ職員研修を行います。さらに、「おおたまた遺産」の魅力を伝えていくとともに、その価値をしっかりと把握し、広めていくため各分野の専門職員の充実・育成を図ります。

③ 関係部局との連携

「おおたまた遺産」に関わる関係部局の連携強化を図り、新たな取り組みや施策・構想見直しについても検討します。

今後の課題

① 構想の住民への周知

本構想に基づき、住民の主体的参加によって本構想の推進を図っていくためには、「おおたまた遺産」を理解し、郷土への愛と誇りの醸成することが大切です。

そのためには、「おおたまた学」の推進、学校教育・生涯学習での「おおたまた遺産」の活用の充実等により、周知・理解に努める必要があります。

② 「おおたまた遺産」保存・活用に向けた計画の策定

本構想で示した方針に基づき、「おおたまた遺産」の保存・活用を具現化していくためには、その取り組み内容を明確にしていけることが求められます。

そのためには、「おおたまた遺産」を活かしたむらづくり等に向けた計画策定を検討する必要があります。

③ 周辺都市との連携

本構想では大玉村域にある「おおたまた遺産」を対象としていますが、歴史や文化は大玉村域で完結しているわけではなく、村外にある文化財を含めた展開を図ることでより魅力が高まります。

大玉村と同じく安達太良山の麓にある二本松市・本宮市と連携し、魅力を高める取り組みを行う必要があります。

④ 構想の見直し・更新

今後の調査・研究により、「おおたまた遺産」が明らかになった場合等は、それらを本構想では未設定であった関連文化財群として位置づけることが求められます。また、時代の経過に伴い、社会的状況や価値観の変化などへの対応や「おおたまた遺産」の保存・活用の取り組みの進展により、構想の一部見直しが必要となることも予想されます。

そのため、一定期間経過後、村の総合計画の見直しなどに合わせ、広く住民の意見を反映しつつ、内容の更新を図っていく必要があります。